

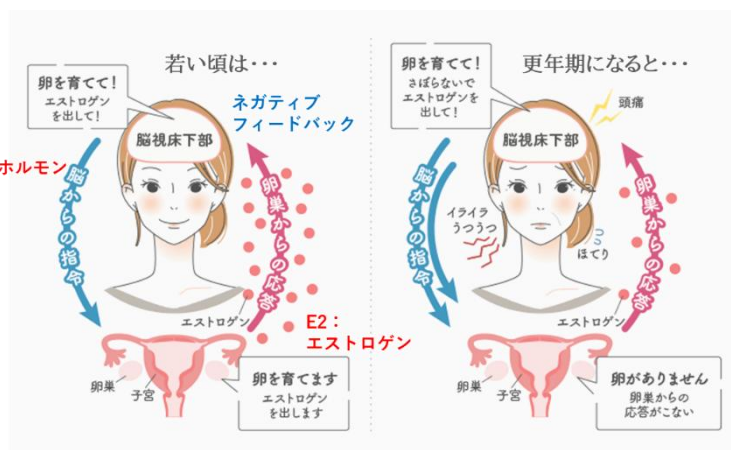
～プラセンタの更年期症状に対する効果：最新版～

☆更年期と更年期症状・障害について

個人差はありますが、女性は50歳前後の年齢で閉経を迎え、閉経の時期を挟む前後5年の10年間を**更年期**と呼びます。この期間に、他の疾患に起因しない症状として、ほてり、のぼせ、発汗などいわゆるホットフラッシュと呼ばれる血管運動神経症状、動悸、頭痛、関節痛、冷え、易疲労感などの身体症状が出ます。また、気分の落ち込み、意欲低下、イライラ、不眠等の精神症状も出ることがありこれらを**更年期症状**と呼びます。しかも、更年期症状により日常生活に支障をきたしてしまう場合がありこの状態を**更年期障害**と呼びます。

☆更年期症状の原因と治療法について

更年期症状の原因は、**加齢による卵巣機能の低下により、女性ホルモン、特にエストロゲンの分泌が低下してしまうこと**です。そのため更年期症状の治療として**女性ホルモンの補充療法**が行われています。しかし、ホルモン補充療法を閉経後何年も継続すると、**心血管疾患や血栓塞栓症のリスクが増加することや乳がんの発症率が上がる**といった報告もされているため、ホルモン補充療法を望まない患者さんも多いです。こうした背景から、プラセンタによる更年期症状の改善が注目されています。



今までプラセンタエキスの更年期症状の改善効果について根本的なメカニズムは解明されていませんでした。それが今回この研究で、今までの論文の結果を合算してみることで、そのメカニズムが解明されました。

※ちなみに論文のタイトルであるシステマティックレビューは、都合の良い

論文を集めるのではなくルールに従って集められた論文のこと、そしてメタアナリシスは複数の論文結果を集めて効果があるかを検討したということです。(次ページ最後の参考文献の論文タイトル参照)

つまりこの論文は、ルールに従って集められた複数の論文の結果を合算したもので信頼性の高いデータであるということを示しています。

☆評価した論文について

今回選定された論文は

① ランダム化比較試験であること、②ヒトを対象とした研究であること、③別の研究と対象者が重複していないこと、④言語が英語または日本語であること、⑤データの平均値、標準偏差、信頼区間…などの報告がされていること、を基準に選定されました。(ルールに沿った選定の部分です)

その結果、最終的に**9編**の論文を対象論文としてデータをまとめることになりました。(次ページ表1参照)

表1の論文概要にある通り、この論文はプラセンタの**経口投与**での検討が**5件**、**注射**での検討が**4件**となっているため、**内服・注射問わず論文が選ばれ、プラセンタの更年期症状に対するメカニズムが実証された**ということになります。詳細は次のページに記載します。

表 1. 論文の概要

著者・発表年	対象者の特性	群	人数	年齢	試験方法	対照群	実験群	投与方法・回数、期間
Choi S ら, 2022 ⁹	45～60歳の更年期症状（ホットフラッシュ）を認める女性	C	n=35	53.86±4.41	ランダム化単盲検 プラセボ対照並行群間試験	プラセボバイアル	ヒトプラセンタエキスバイアル （1バイアル0.5 mL） pharmaceutical company unimed, 韓国	皮下注射 1日1回（1バイアル）、週2回、8週間
Nagae M ら, 2020 ¹⁷	40～59歳の健康な女性	C	n=10	44.7±3.4	ランダム化二重盲検 プラセボ対照並行群間試験	プラセボサプリメント	ブタプラセンタエキスサプリメント （1錠100 mg） 佳秀工業株式会社, 日本	経口摂取 1日1回（2錠）、4週間
Lee J ら, 2020 ²	40歳～60歳の更年期症状を認める女性・閉経後1年以上を経過、または卵巣刺激ホルモン（FSH）のレベルが50 mIU/mLを超える子宮を全摘された者・クーパーマン更年期指数（KMI）が20を超える者	C	n=42	57.19±3.69	ランダム化二重盲検 プラセボ対照並行群間試験	プラセボカプセル	ブタプラセンタエキスカプセル （1カプセル400 mg） Cellamedic Korea 株式会社, 韓国	経口摂取 1日1回（1カプセル）、12週間
Kitanohara M ら, 2017 ¹⁸	45～59歳の更年期症状を認める女性	C	n=21	50.2±3.2	ランダム化二重盲検 プラセボ対照並行群間試験	プラセボカプセル	ブタプラセンタエキスカプセル （1カプセル75 mg） スノーデン株式会社, 日本	経口摂取 1日1回（4カプセル）、12週間
Koike K ら, 2013 ²⁵	更年期症状（雨こり）を認める閉経後の女性	C	①n=30 ②n=25	①51.9±4.3 ②60.7±4.6	ランダム化非盲検 プラセボ対照並行群間試験	①当帰芍薬散 （7.5 g 1日1回） ②HTを3ヶ月間行った後、 更にHT+当帰芍薬散 （7.5 g 1日1回） 株式会社ツムラ, 日本	①ブタプラセンタエキスカプセル （1カプセル350 mg） ②HTを3ヶ月間行った後、 更にHT+ブタプラセンタエキスカプセル （1カプセル350 mg） 株式会社日本生物製剤, 日本	経口摂取 ①1日3回（1カプセル）、最初の12週間 ②1日3回（1カプセル）、次の12週間
Koike K ら, 2013 ²⁵	更年期症状を認める女性	C	n=35	51.1±3.6	ランダム化非盲検 プラセボ対照並行群間試験	当帰芍薬散 （当帰芍薬散7.5 mg, 1日1回） 株式会社ツムラ, 日本	ブタプラセンタエキスカプセル （1カプセル350 mg） 株式会社日本生物製剤, 日本	経口摂取 1日3回（1カプセル）、最初の12週間 1日3回（2カプセル）、次の12週間
Lee Y ら, 2009 ²	45～65歳の更年期症状を認める女性・クーパーマン更年期指数（KMI）20以上の者・試験参加前30日以内にホルモン補充療法を受けていない者	C	n=47	52.4±5.13	ランダム化二重盲検 プラセボ対照並行群間試験	プラセボバイアル	ヒトプラセンタエキスバイアル （1バイアル100 mg） Pharma-research 韓国	皮下注射 1日1回（1バイアル）、週3回、4週間
Kong M ら, 2008 ²¹	40～64歳の更年期症状を認める女性	C	n=38	55.0±5.4	ランダム化単盲検 プラセボ対照並行群間試験	プラセボバイアル	ヒトプラセンタエキスバイアル （1バイアル112 mg=2 mL） Green Cross Japan Bio Products Ltd, 韓国	皮下注射 1日1回（4 mL）、週2回、最初の2週間 1日1回（2 mL）、週2回、次の2週間 1日1回（2 mL）、週1回、最後の4週間
唐沢 陽介 ら, 2005 ²²	30歳以上の更年期障害と診断された女性	C	n=24	44.7±1.02	ランダム化 プラセボ対照並行群間試験	プラセボバイアル	ヒトプラセンタエキスバイアル （100 mg） 製造元記載なし	皮下注射 1日1回、週3回、2週間

C：対照群 E：実験群 n：人数 HT：ホルモン補充療法

☆更年期症状においてプラセンタがアプローチしていた場所

更年期症状で起こっていることは、

- ・ 卵巣機能の低下
- ・ エストロゲンの低下
- ・ ネガティブフィードバックの低下

（もうエストロゲンたくさん分泌したからいらぬよという卵巣からの抑制フィードバック）

- ・ FSH の過剰分泌

（エストロゲン足りぬからもっと作ってという脳からの指令）

になります。つまりこのどれかをプラセンタは改善することで更年期症状を緩和しているということです。

今回の9編の論文のデータを集計してわかったことは、

プラセンタは

- ・ エストロゲンの分泌は促進しない
- ・ FSH の分泌を抑制する

ということです。

これは、エストロゲンを補うホルモン補充療法とは

異なるアプローチ方法であり、副作用リスクを回避して更年期症状の改善が望めるということです。

このメカニズムはプラセンタの専門家として理解をしておきましょう。



参考文献：プラセンタエキスの更年期症状に対する効果：システマティックレビュー及びメタアナリシスによる検証，浅水希ら，青森保険医療福祉健康，7(1); 12-21; 2025